

Fujizack フジザック 通信 22



これは、ふじざくら支援学校から保護者の方に情報提供する不定期通信です。
【第22号】令和4年2月16日 文責：校長

本校の周辺は、テレビや新聞の予報より降雪量が多いように感じています。過日は、大雪が見込まれるとの予報を受け、臨時休業と始業時刻を2時間遅らせる対応をとりました。学校は、児童生徒の安全確保が最優先されます。これには、校内における活動だけではなく、登下校も含まれています。小・中学校よりも広範囲な通学区域である本校としては、慎重の上にも慎重な判断が必要になります。

大雪や台風などはある程度予測することができ、事前に準備や対策が可能です。一方、地震予知については、専門的な研究がかなり進んでいるようですが、まだまだ十分とは言えない状況です。そこで重要になってくるのは、突然大地震が起きたときにどのような対応をするのかについて、事前に考えておくことでしょう。

平日の日中、児童生徒が在籍しているときに大地震が発生した場合は、教職員が児童生徒を体育館やグラウンドに避難誘導して安全を確保します。そして[引き渡し訓練]の要領で、児童生徒を確実に保護者に引き渡します。周辺道路の通行不能や自宅の損壊、保護者自身や家族の被災状況などにより、保護者の引き取りが難しい場合を想定し、児童生徒が学校で3日間程度の生活ができるよう、学校では食料や水の備蓄、毛布や発電機等の防災用品を備えています。また、毎日服用する内服薬がある児童生徒には、帰宅困難時を想定して3日分の薬を学校で預かっています。保護者に引き渡すまで、安全で安心な生活環境を確保するための準備をしています。

帰宅後や休日に大震災が発生した場合の避難です。各市町村では[地域防災計画]を策定しています。これに則って行動し、まず自治会等の各地域で決めた参集場所や市町村が指定する避難場所に避難します。引き続き地震が想定されたり、家屋が損壊したりして、自宅に戻ることができない場合は、市町村が指定する避難所で生活することになります。そして、避難生活が長期化した場合に、他の避難者との共同生活が困難な状態の人や介護を必要とする人のための二次的な避難所として、各市町村が[要配慮者専用避難所]を開設します。これが **[福祉避難所]** であり、福祉施設、老人施設、障害者施設などを避難所に指定して、各市町村が運営します。

過日のニュースで取り上げられましたが、本校では所在地である富士河口湖町からの申し出を受け、福祉避難所として一部の学校施設の使用について許可しました。災害時には、富士河口湖町が本校に福祉避難所を開設するか否かを判断し、実際の運営も町のスタッフが当たります。他の市町村でも福祉避難所の設置計画がありますので、防災課等に確認してください。



実は、本校には気象予報士がいます。難関の試験に合格し、気象庁長官の登録を受けています。今回の大雪も、時々刻々と変化する気象観測データをもとに数時間後の気象状況を想定し、本校の位置や高度から雪の種類や降雪量を的確に割り出すという高精度でピンポイントの予測でした。とても頼りになります。



「夕焼けだったら・・・」「ツバメが低く飛んだら・・・」「富士山頂に○○雲が・・・」という昔からの言い伝えには、何らかの根拠があるのでしょうか。小学生の頃、遠足の前日に友人と靴を蹴り飛ばして翌日の天気を占ったことを思い出します。運動靴の形状からほとんど「晴れ」の結果になるのですが、根拠のない占いでも喜んでいたものです。